



第6回「おたる案内人」マイスター 検定試験問題

2014年3月23日

小樽観光大学校

*合格発表は下記のホームページでご確認できます。
*URL:<http://www.otaru-kd.com>

各設問で選択問題は番号で、また記述問題は決められた字数で記入しなさい。
(制限時間90分)

問1

日本を代表する観光都市の一つは京都ですが、京の都はいつの時代から形成されたのでしょうか。

1. 古代
2. 平安時代
3. 室町時代
4. 江戸時代

問2

これまでの小樽のまちづくり運動と観光の関係において、最も深い結びつきを持つ出来事は次のどれでしょうか。

1. 海洋レジャーの新興
2. 道路網の整備
3. 外国人観光客との連携
4. 歴史的建造物の再利用

問3

当時の小樽市長新谷昌明氏が小樽観光元年と称した出来事は次のどれですか。

1. 北一硝子三号館開館（昭和58年）
2. 小樽博覧会（昭和59年）
3. 運河散策路の完成（昭和61年）
4. 小樽運河プラザ開館（平成元年）

問4

小樽が今日の観光都市となったのは、過去の高度経済成長も一因とされています。その高度経済成長は次のどの年代でしょうか。

1. 昭和21年～昭和29年
2. 昭和30年～昭和48年
3. 昭和53年～昭和61年
4. 昭和63年～平成6年

問5

日本における安近短旅行が可能になった背景で最も相応しいのは次のどの出来事ですか。

1. 客船の整備
2. 鉄道網の整備
3. 道路網の整備
4. 旅客機（飛行機）の誕生

問6

小樽市指定の歴史的建造物でないものはどれですか。

1. 叫児楼
2. 小樽バイン
3. さかい家
4. 花ごころ

問7

小樽運河保存運動の主張で関係のないものは次のどれですか。

1. 市民主体のまちづくりを主張
2. 中央集権構造の補修を支持
3. 地域の独自性を尊重した整備（公共事業）を主張
4. 歴史的環境が新たな経済的資源になることを主張

問8

多くのまちづくり運動によって小樽観光の資源が発掘・錬磨されてきましたが、その過程で最も大切なことは何ですか。

1. できるだけ小樽に無関係な資源を引き込む
2. 売れるものなら何でも売る
3. できるだけ目立つように演出する
4. 時間をかけて街並みに調和させる（馴染ませる）

問9

参考事例で紹介した「長崎さるく」が全国で注目される理由はなんでしょうか。

1. 日本の1ローカル都市で成功した観光まちづくり
2. 傑出した観光リーダー・キーマンによる観光まちづくり
3. 地域ローカル色を全面にだした観光まちづくり
4. 理念を真正面に打ちだし、数字的にも成功した観光まちづくり

問10

参考事例で紹介した「長崎さるく」の、性格の上での一番の特徴はなんでしょうか。

1. メジャーエージェントによる着地型ツーリズム
2. 市民がその町にある日常生活の場を活用したニューツーリズム
3. 従来の集客施設ツーリズムや集客装置ツーリズムへのアンチ
4. マス（団体）ツーリズムへのアンチ

問11

観光で成功した事例は全国に多々あります。長崎さるくの成功のポイントは次のどれでしょうか。

1. 従来からの行政主導の観光施策への不満・拒否
2. 従来からの旅行代理店主導の観光ツアーへの不満・拒否
3. 従来から数回あったパビリオン施設設置型観光への不満・拒否
4. 従来からの不満や拒否ではなく、市民が手分けして仕事を引き受ける姿勢

問12

長崎さるくは、どのようなプロセスで組み立てられたでしょうか。

1. 長崎県庁観光部門によるプロジェクトチームによって構想され実践された
2. 長崎市役所の職員によるプロジェクトチームによって構想され実践された
3. 長崎市内の市民各界各層からの市民委員の自主的モチベーションから構想・実践された
4. メジャーエージェント、メジャーコンサルトの特別チームによって構想され実践された

問13

長崎さるくの合い言葉＝基本的目標は次のどれでしょうか。

1. 宿泊してゆっくり町を堪能してほしい
2. まち活かし、ひと活かし
3. 観光関連業者がまず第一に潤うため
4. 出島再開発や新幹線延伸を成功させるため

問14

町歩き・町巡り観光はどのように捉えるべきでしょうか。

1. 単なるウォーキングブームに便乗した企画
2. 地味で、観光イメージに必要な派手さ、明るさがない
3. 観光の経済的側面だけでなく、町づくりという視点でみるべき
4. 町の路地裏探検のマニアックな企画でありアピール力はない

問15

次の内、「町巡り」観光の効果とはならないものはどれでしょうか。

1. 町をそぞろ歩いてもらうことで町の商店の商品を購入してもらえ
2. 自分の町のことを知らない住民の再組織化、伝えていくべき埋もれていた価値の浮上
3. 町を経済的側面だけでなく、町を活かし、人を活かす手段となる
4. 観光まちづくりにとってのキーパーソンの創出はそう簡単に展望できない

問16

小樽観光でこれから力を注ぐべきテーマは次のどれでしょうか。

1. クルーズ客船寄港観光誘致
2. 外国人インバウンド観光誘致
3. 人口集積の180万札幌圏の観光客誘致
4. 新幹線札幌延伸による本州観光客誘致

問17

小樽運河の中央橋でお客様をガイドしています。正しいのはどれでしょうか。

1. 正面に見えます小樽倉庫（現：運河プラザ）は北前船主の西出孫左衛門が広海二三郎とともに明治27年に建設したものです。
2. 龍宮橋の左手に見える大きな倉庫は北前船主の大家七平が明治24年に建設しました。越屋根の妻面に「かねしち」の印が印象的です。
3. この中央橋と龍宮橋の間の海側には「旭橋」、龍宮橋の向こう側には「月見橋」がかかっており、それぞれ趣きのある景観となっていますので、ぜひご覧ください。
4. 浅草橋をご覧ください。右手、山の手方向に延びる道路にはかつての銀行街は今も残っており、小樽の黄金期といわれた大正時代の雰囲気醸し出しています。色内大通との十字街には旧北海道拓殖銀行、旧三菱銀行、旧第一銀行の3行が再生利用されています。

問18

問18 小樽市内には「印」の付いた建物が数多くあり、散策ツアーも人気となっています。次の印は何と読むでしょうか。



1. まるじょういち
2. ふんどういち
3. おびりゅうご
4. いびし

問19

松前藩成立以降、東西蝦夷地に暮らすアイヌ民族は次第に経済的に圧迫されるようになります。それはしばしばアイヌの人々の実力行使の形へとつながります。アイヌ民族と和人の戦いを発生順に並べた正しいものを選びなさい。

1. シャクシャインの戦いークナシリメナシの戦いーコシャマインの戦い
2. シャクシャインの戦いーコシャマインの戦いークナシリメナシの戦い
3. コシャマインの戦いーシャクシャインの戦いークナシリメナシの戦い
4. コシャマインの戦いークナシリメナシの戦いーシャクシャインの戦い

問20

幌内鉄道は開拓使により、石炭輸送を目的として開通した国内でも初期に開通した鉄道です。この幌内鉄道開設時の記録は、『開拓使事業報告』の「道路」の項目に記載されていますが、もうひとつの項目にも記載されています。次の中から選択してください。

1. 「運輸」
2. 「鉱物」
3. 「農業」
4. 「漁業」

記述問題

次の各設問に200字前後の文章で述べなさい（簡条書きは不可）

1. 小樽観光が「まちづくり観光」といわれている所以を記述してください
(まちづくり観光論より出題)
2. 長崎さるくの基本コンセプトである「町あるき」は当初、地味で客寄せにはならないのではと
思われていました。それが何故、集客できる企画となったのでしょうか。
(オリジナル観光プラン立案より出題)

総合記述問題

次の設問に400字前後の文章で述べなさい（簡条書きは不可）

小樽は近年クルーズ船の寄港地として人気が高まってきました。これは小樽市の熱心な誘致活動の成果でもあり、平成26年は37回の寄港が予定されています。この多くの乗船客に対する小樽ならではの「おもてなし」を次の①②の内、いずれかを選択し、具体的な提案をなさい。

*発生する費用は考慮しなくてもよい。季節は夏期とする。

*乗船客は以下のように設定します。

1. 船は勝納埠頭に接岸し、小樽ではどのように迎えてくれるのかを楽しみにしています。
2. 小樽観光のリピーターで道外客です。
3. 観光パンフレットや雑誌に載っていない所へ行きたいと思っています。

①入出港時の接岸埠頭でのセレモニーでは、寄港地の多くがその土地の踊りや太鼓で歓迎、見送りといった内容が多いのが現状です。これ以外で小樽らしい印象に残るセレモニーの内容を具体的に提案しなさい。

*入港と出港に分けて記述すること。

②乗船客のほとんどの滞在時間は半日です。そこで6時間以内のガイド時間を設定し、観光ガイドとしてどこへ案内し、小樽の魅力をどのように伝えるかを書きなさい。

*次の要素は必ず明記しなさい。（コースのみの提案は不可）

- ガイド時間
- 移動手段